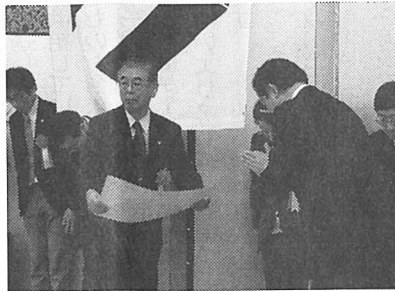


ものづくり大賞で優秀賞

小松電機 産業 高速シートシャッターを改良

小松電機産業（本社・松江市、小松昭夫代表取締役）が開発した「超高速ハッピーゲート門番システム」が、第4回ものづくり日本大賞で、優秀賞（製品・技術開発部門）を受賞した。食品や精密機器、医薬品など環境重視の工場で、空間構築の効果が評価され、第4回ものづくり日本大賞記念フォーラム：中国（2月29日、広島市内）で表彰された。



表彰状を受け取る小松代表取締役

「超高速ハッピーゲート門番システム」は、累計13万台販売している高速シ

ートシャッター「門番」を改良。コンパクト設計で、▽業界最速の上昇速度3・0m/秒▽消費電力60%削減（従来比）▽高気密▽安全を考慮した3段階の速度設定―などを実現した。約200名が参加したフォーラムでは、井辺國夫・経済産業省中国経済産業局長が「次世代の育成に尽力を」と挨拶。第1部では中国地方の各受賞案件紹介や表彰式、第2部では鈴木一義・国立科学博物館主任研究員の基調講演後、パネルディスカッション「世界の明日をめざそう 日本のもものづくり」が行われた。

この中で、パネリストを務めた小松代表取締役は、「文化をつくるという認識を持ち、『超高速ハッピーゲート門番システム』を開発した。今後、も自らの立場やお客様ニーズを踏まえ、異文化交流も図りながら、新たに世界市場を開拓していきたい」と意見を述べた。